



貧困国への援助再考

ニカラグア草の根援助からの教訓

加賀美充洋 著

アジア経済研究所

貧困国への 援助再考

ニカラグア草の根援助からの教訓

加賀美充洋著



アジア経済研究所

日本の援助は当該国に役立ち日本の国際的立場を強化したのか？
大型案件でなくても効果的な援助は無いのか？本書は少額でも成果の上がる
「草の根・人間の安全保障無償資金協力」に焦点を当てる。ニカラグアでの
地域住民参加型同援助を実施した経験から具体例を豊富に取り上げ解説する。
実施面における様々な工夫も紹介する。例えば、援助案件を公平に選定するための
「ニカラグア方式」等である。日本の援助に新たな一石を投じる試み。



9784258051113



1921230009801

ISBN978-4-258-05111-3
C1230 ¥980E

定価： 本体980円 + 税



IDE-JETRO

著者紹介
かがみみつひろ
加賀美充洋

1943年長野県生まれ。1967年国際基督教大学卒、アジア経済研究所（IDE）入所。1971—73年海外派遣員としてスタンフォード大学経済学部へ派遣され修士取得、国連職員としてチリ駐在（1982—86年）、アジア経済研究所の海外調査員としてワシントンD.C.駐在（1991—93年）を経て、1998年7月—2000年6月日本貿易振興会・アジア経済研究所（IDE-JETRO）研究企画部長、2000年7月—2003年5月日本貿易振興機構理事。2001年3月広島大学より学術博士（開発経済学）を取得。2003年5月—2007年5月ニカラグア駐節日本国大使。2007年7月—現在IDE-JETROのバンコク研究センター長。

主な編・著書には、福地崇生・加賀美充洋編『環太平洋経済の現状と展望—アジア・中南米比較—』研究双書No.339アジア経済研究所（1990）、加賀美充洋・細野昭雄編『ラテンアメリカの産業政策』研究双書No.412アジア経済研究所（1991）、M. Kagami, *The Voice of East Asia: Development Implications for Latin America*, OPS No. 30, IDE（1995）、E. Giovannetti, M. Kagami and M. Tsuji eds., *The Internet Revolution: A Global Perspective*, Cambridge University Press（2003）、M. Tsuji, E. Giovannetti and M. Kagami eds., *Industrial Agglomeration and New Technologies: A Global Perspective*, Edward Elgar Publishing Ltd.（2007）などがある。

〔カバー写真〕

表 ニカラグアの仮面舞踏（馬のお面）

裏 ソレンティナメの朽ちた教会から望むニカラグア湖

貧困国への援助再考

——ニカラグア草の根援助からの教訓

加賀美充洋 著

日本の援助は当該国に役立ち、日本の国際的立場を強化したのか？
大型案件でなくても効果的な援助は無いのか？
本書は少額でも成果の上がる「草の根・人間の安全保障無償資金協力」に焦点を当てる。
ニカラグアでの地域住民参加型同援助を実施した経験から具体例を豊富に取り上げ解説する。

アジアを見る眼

111

IDE-JETRO

ISBN978-4-258-05111-3 C1230

アジアを見る眼

111

貧困国への援助再考

ニカラグア草の根
援助からの教訓

加賀美充洋 著

著

アジア経済研究所

アジアを見る眼

111

IDE-JETRO

加賀美充洋 著

日本の援助は当該国に役立ち、日本の国際的立場を強化したのか？
大型案件でなくても効果的な援助は無いのか？
本書は少額でも成果の上がる「草の根・人間の安全保障無償資金協力」に焦点を当てる。
ニカラグアでの地域住民参加型同援助を実施した経験から具体例を豊富に取り上げ解説する。

貧困国への援助再考

——ニカラグア草の根援助からの教訓

アジア経済研究所

貧困国への援助再考

——ニカラグア草の根援助からの教訓

はしがき 3

第一章 ニカラグアの国土 9

一 国土・風物 10

二 歴史・政治 20

三 経済 28

第二章 大使館の仕事—経済協力を中心に— 33

一 大使館の仕事 34

二 重要な経済協力の仕事 41

三 援助の目的 44

四 援助の仕組みと選択過程 45

五 援助実績 47

第三章 草の根援助

一 沿革

55

二 申請団体および分野

57

三 事業の流れ

57

四 実績

58

五 草の根援助の特徴と問題点

61

第四章 ニカラグアにおける草の根援助

一 手続き・体制

68

二 選考過程ならびに基準およびモニタリング

70

三 草の根援助の実績

81

第五章 具体的事例

101

一 教育案件

102

二 保健案件

107

三 民生環境案件（ゴミ収集）

116

- 四 水道案件 121
- 五 社会的弱者救済（更生施設） 126
- 六 農村女性の自立を助ける 129
- 七 大統領選挙支援 131
- 八 モニタリングの事例 139
- 九 他ドナーの援助との比較 143

第六章 草の根援助の可能性

- 一 成功するための要因 150
- 二 貧困国への有効性 159

あとがき

163

コラム

- 一 大使の仕事 35
- 二 大使館対抗サッカー大会 38
- 三 式典における催し物 51
- 四 七〇周年記念行事 82
- 五 二〇〇六年大統領・国会議員選挙 135

図・表リスト

- 図1 中米の地図 6
- 図2 ニカラグアの地図 7
- 図3 政府開発援助の分類 42
- 表1 ニカラグアのマクロ経済指標 二〇〇一―二〇〇七年 29
- 表2 草の根援助実績(世界各国・地域計) 59
- 表3 ニカラグアにおける草の根審査基準(点数による評価)―ニカラグア方式― 71
- 表4 154―6 二〇〇五年度草の根プロジェクト一覧 88
- 表5 県別草の根援助案件数(二〇〇三―二〇〇六年度) 151

本文写真リスト

- 写真1 モモトンボ(左)とモモトンビート火山 10
 写真2 ノコギリエイの剥製 12
 写真3 コンセプション火山 12
 写真4 素朴画(アルバロ・ガイタン作) 13
 写真5 マサヤ火山 14
 写真6 旧マナグア大聖堂 15
 写真7 ソレンティナメ群島 16
 写真8 コーン・アイランド 16
 写真9 幹になるヒカロの実 17
 写真10 ロブレの花盛り 17
 写真11 散歩中のイグアナ 18
 写真12 一休みのチョコヨ 19
 写真13 エル・カステイヨの砦 21
 写真14 滔々と流れるサン・ファン河 22
 写真15 朽ち果てた浚渫船(グレイタウン) 24
 写真16 ヘリコプターからの風景 24
 写真17 今も残るパンチート飛行場 25
 写真18 シウナ産の金塊 30
 写真19 日本大使館チーム(大使館提供) 39
- 写真20 拘置所改修式典にて 48
 写真21 日本から購入した三台の地雷除去機 48
 写真22 エル・ラマーククラ・ヒルラグラナ・デ・ペル
 ラス農道建設開始 50
 写真23 農民の踊り 52
 写真24 ジーサン・バーサン 53
 写真25 カリブの踊り 54
 写真26 勢ぞろい 54
 写真27 草の根・イン・アクション(草の根班提供) 69
- 写真28 四種の記念切手が貼られた封筒と大統領の押
 した最初のスタンプ 83
 写真29 日本庭園と環境センター(大使館提供) 84
 写真30 両国の外交史の本 85
 写真31 小学校一年生用算数教本(右)と先生用マニ
 アル(左) 87
 写真32 乾季に咲くコルテスの黄色い花 104
 写真33 市長と旧教室 105
 写真34 新教室内部 105
 写真35 ニカラグアの気になる木 111
 写真36 新生児を抱くお母さんたちと一緒に 113

写真 37	日本の贈った救急パンガとTさん	115
写真 38	市庁舎中庭の式典	118
写真 39	市長に手渡されたトラツクの鍵	119
写真 40	サン・ファン・デル・スルの砂浜	119
写真 41	二台のゴミ収集車	121
写真 42	断崖と海の間はエルサルバドル	124
写真 43	式典風景、正面が貯水タンク	124
写真 44	歓迎の踊り	125
写真 45	水道水を飲む来賓の一人	126
写真 46	二階に集合	128
写真 47	式典の垂れ幕の前でダンス	132
写真 48	研修生による実演	132
写真 49	ダニエル・オルテガ大統領	138
写真 50	草の根竣工式の新聞報道された一部	158

貧困国への援助再考

——ニカラグア草の根援助からの教訓

著者紹介

かがみみつひろ
加賀美充洋

1943年長野県生まれ。1967年国際基督教大学卒、アジア経済研究所（IDE）入所。1971—73年海外派遣員としてスタンフォード大学経済学部へ派遣され修士取得、国連職員としてチリ駐在（1982—86年）、アジア経済研究所の海外調査員としてワシントンD.C.駐在（1991—93年）を経て、1998年7月—2000年6月日本貿易振興会・アジア経済研究所（IDE-JETRO）研究企画部長、2000年7月—2003年5月日本貿易振興機構理事。2001年3月広島大学より学術博士（開発経済学）を取得。2003年5月—2007年5月ニカラグア駐箚日本国大使。2007年7月—現在IDE-JETROのバンコク研究センター長。

主な編・著書には、福地崇生・加賀美充洋編『環太平洋経済の現状と展望—アジア・中南米比較—』研究双書No. 339アジア経済研究所（1990）、加賀美充洋・細野昭雄編『ラテンアメリカの産業政策』研究双書No. 412アジア経済研究所（1991）、M. Kagami, *The Voice of East Asia: Development Implications for Latin America*, OPS No. 30, IDE（1995）、E. Giovannetti, M. Kagami and M. Tsuji eds., *The Internet Revolution: A Global Perspective*, Cambridge University Press（2003）、M. Tsuji, E. Giovannetti and M. Kagami eds., *Industrial Agglomeration and New Technologies: A Global Perspective*, Edward Elgar Publishing Ltd.（2007）などがある。

貧困国への援助再考

—ニカラグア草の根援助からの教訓

アジアを見る眼111

2009年10月30日発行 ©

定価： 本体980円 + 税

著者 加賀美充洋

発行所 アジア経済研究所

独立行政法人日本貿易振興機構

千葉市美浜区若葉3-2-2 〒261-8545

研究支援部

電話 043(299)9735（販売）

FAX 043(299)9736（販売）

E-mail syuppan@ide.go.jp

<http://www.ide.go.jp>

制作 (有) テラパブ

印刷 康印刷株式会社

落丁・乱丁はお取り替えいたします

無断転載を禁ず

ISBN978-4-258-05111-3 C1230

地中海から太平洋まで、この広くアジアと呼ばれる地帯には幾十かの国がある。その大部分は第二次世界大戦以後、古い植民地体制から脱して新興の独立国となったものである。世界の人口の半ば以上のものがここにある。これらの新興国はそれぞれの立場に立つて、建国創業の仕事に力をつくしている。

その業は果たして障害なく着々と進んでおるか。だれもがこれに対して頭をかしげるであろう。そしてだれもがアジアは「流動的である」という。

流動的とは何であるか。また何でないか。いくたの混みいった事態のなかを、一本の金の線が生々発展的に縫っているのも流動的である。経済は着々と成長し、政治は一つの体制のなかで徐々に整備されているような場合がそれである。

アジア諸国の大部分については、事態はこのように簡単ではない。もちろん、経済の場面には大きな発展・成長の芽生えはある。しかし、他面においてそれを抑制するものが力づよい。またおよそ発展や成長を考える場合、在来流行の理解によるパターンを以つてするのが果たして正しいか、との疑問もでてくる。さらに政治体制については、イデオロギーの対立、複合民族国家における特殊なナショナリズムに伴う民族や種族間の闘争があつて、政治的安定はなかなか期すべくもない。独立国家の幼年期に伴う政治的、行政的未熟もまた考えられるべき大きな原因である。

こういう次第で、アジアが流動的であるとは、一つの混沌を意味するものといえようか。そしてその上に立つていかなる経済・社会・政治の体制が整いだされるであろうか。——この意味で二〇世紀後半のアジアは世界における「問題」、いな最もおおきな「問題」である。

アジア経済研究所は、まさにこの「問題」の理解に向かつて、ひたすら前進をつづけている。われわれの期するところは、まさにそれぞれの国の現実に即した精確な知識を供しよう、そしてこの大きな「問題」について静かなサーピスをいたそうとするに尽きる。設立以来すでに七カ年あまり、専らそういう道を歩んできたし、今後もそれに変わりはない。このシリーズは、多くの研究や調査の報告書、現地調査を土台として、アジアについての解説書・教養書たることを目標とするものである。

一九六六年三月

アジア経済研究所 東 畑 精 一

96 やさしい開発経済学

山形辰史 編

開発経済学および開発にかかわる経済学の主要なエッセンスを平易な文体でわかりやすく解説した。一九九八年一月刊 一四〇〇円十税

97 アフリカの人口と開発

早瀬保子 著

人口急増、エイズ、一夫多妻婚、保健衛生、難民問題等、ジンバブエに長期滞在していた人口学者がアフリカ人口問題の現状とその背景を、最新資料で解説するアフリカ人口学入門書。一九九九年四月刊 一四〇〇円十税

98 市場発生のダイナミクス

丸川知雄 著

計画経済の殻を破って市場経済がダイナミックに誕生している中国。現地での企業インタビューを通じて、産業の現場から市場経済が発生するとはどういうことかを考察する。一九九九年四月刊 一四〇〇円十税

99 アジア通貨危機と金融危機から学ぶ

國宗浩三 著

アジア通貨危機のメカニズムを解説し、その原因についての諸説を検討する。IMFの対応の問題点や、現在アジア諸国で進みつつある企業や銀行の再建についても考察する。二〇〇一年三月刊 一四〇〇円十税

100 イエメンものづくし

モノを通してみる文化と社会

佐藤 寛 著

日本とは気候も歴史も文化も言語も異なる「アラブの田舎」イエメン。そこで暮らしていると出会う奇妙なモノの数々、そんなモノどもの背景をのぞくことでイエメンの文化と社会を理解しようとする、地域研究者のフィールドノート。二〇〇一年三月刊 一四〇〇円十税

101 北京からの「熱点追跡」
現代中国政治の見方

佐々木智弘 著

共産党による一党支配はどのように維持されているのか北京大学、政治改革、日中関係、中国共産党の四つの舞台から、答えを探る。二〇〇一年二月刊 一四〇〇円十税

102 スラウエシだより
地方から見た激動のインドネシア

松井和久 著

スハルト政権崩壊前後の五年間をスラウエシ島で暮らした筆者が、激動のインドネシアを地方からの視点で捉えた臨場感あふれる観察記録。二〇〇二年三月刊 一四〇〇円十税

103 中国の石油と天然ガス

神原 達 著

三〇年間中国の石油産業を調査してきた著者が、改革と発展を続ける石油、天然ガス産業の現状と将来を見通し、需要増大で大石油輸入国となる中国の石油安定確保政策をも論じる。二〇〇二年二月刊 一四〇〇円十税

104 ガーナ 混乱と希望の国

高根 務 著

カカオの産地として有名な、西アフリカの国、ガーナ。この国の豊かな文化と歴史を辿り、そして私たちと同時代を生きるガーナのくらしを、等身大の視点で描く。二〇〇三年十一月刊 一、一〇〇〇円＋税

105 アジアの人口

グローバル化の波の中で

早瀬保子 著

多産多死から少子高齢化、児童労働と都市化、エイズ・SARSの拡大と国際労働移動など、多様なアジアの人口問題を考察し、その将来を展望する。二〇〇四年三月刊 一、四〇〇〇円＋税

106 テヘラン商売往来

イラン商人の世界

岩崎葉子 著

一〇年にわたる調査で覗いたイラン商人の世界。客あしらいや義理人情など、商売の極意を彼ら自身の言葉で綴る。宗教や政治の本では決して読めない生身のイランが見えてくる。二〇〇四年七月刊 一、四〇〇〇円＋税

107 貧困削減と世界銀行

9月11日米国多発テロ後の大変化

朽木昭文 著

二〇〇一年九月十一日米国同時多発テロが開発のあり方にも影響し、貧困削減が地球的な課題となった。本書は、世界銀行の貧困削減戦略を示し、筆者の成長戦略を提案する。二〇〇四年九月刊 一、一〇〇〇円＋税

108 石油大国ロシアの復活

木村真澄 著

石油生産の回復とともに力強さを取り戻しつつあるロシア経済。サウジアラビアと並ぶ世界最大の産油国であるロシアの石油について、その特質を分析し、今後の方向を展望する。二〇〇五年三月刊 一、四〇〇〇円＋税

109 ロシア資源産業の『内部』

塩原俊彦 著

世界的な関心を集めるロシアの石油・ガス産業を、政治との関係をはじめ企業集団ごとに詳細に分析した力作。二〇〇六年一〇月刊 九八〇円＋税

110 社会主義後のウズベキスタン

変わる国と揺れる人々の心

ティムール・
ダダバエフ 著

ソ連邦と社会主義という制度が崩壊した後、人々は何のような理想や夢を抱き、悩みを抱えているのか。国家、社会、そして家族に対する考え方はどのように変化したのだろうか。二〇〇八年六月刊 九八〇円＋税